

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和8年1月分）

### 【製造業】

- 11月の鉱工業生産指数は前月比▲5.6%となった。ヒアリングでは、最低限の受注数は確保できたが、引き続き業績的には厳しい見込みとの声や、樹脂加工部門では自動車向け製品の受注が増加しているが、電子加工部門ではサーバー向けの顧客の受注が減少しているとの声、防衛関係の受注は安定していたが、工作機械全般は減少しているとの声が聞かれる。
- 地場産業は、11月の鉱工業生産指数は木材・木製品、食料品、パルプ・紙で上昇した。ヒアリングでは、国内販売は好調を維持しているが、海外販売はアメリカ向けの販売において出荷待ちの状況が発生しているとの声や、照明事業はインバウンドが好調でホテルからの入替などの注文が多いが、和紙の小売事業については低迷しているとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

- 設備投資は、12月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比12.0%増加となった。ヒアリングでは、業績の回復に伴い、社全体で設備投資の希望が多くなっているとの声が聞かれる一方で、設備投資は抑制しており、無人化・省人化を進める高コストな専用ラインは極力導入せず、人による作業も残した汎用型ラインへの切り替えを進めているとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

- 個人消費は、12月の販売額は、全体で前年同月比0.6%増加となった。ヒアリングでは、シネコンの好調も続いており、年度累計で客数は過去最高で売上も歴代4位となっているとの声が聞かれた。

### 【観光】

- 宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

### 【資金繰り】

- 12月の制度融資実績は金額で3ヶ月ぶりに減少となった。金利上昇局面において、長期固定の商品のニーズが高まっているとの声が聞かれた。

### 【雇用】

- 12月の有効求人倍率は1.44倍と前月比0.02ポイント上昇となった。ヒアリングでは、生産現場は高齢化が進み、新規の若い人材の確保が難しいため、業界各団体が就活ツアーを企画し、学生へのアピールを実施しているとの声や、製造難度が高い製品の受注割合が増えており、品質管理に対応できる人材が不足しているとの声が聞かれた。待遇面については、初任給も上がっているため、既存社員との不公平感が出ないように可能な限り、従業員一人一人と面談して話をしているとの声や、最低賃金の継続的な上昇による収益の変化について、中期的な予測を立てたとの声が聞かれた。

### 【景気動向】

- 11月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲2.5ポイント、12月の中小企業の景況感は同5.0ポイント上昇となった。